

平成29年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	郵政行政における適正な監督			担当部局庁	情報流通行政局郵政行政部	作成責任者	
事業開始年度	平成15年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画課	課長 北林 大昌	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	総務省設置法第4条第1項 第73号、第74号及び第75号			関係する計画、 通知等	-		
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	郵政民営化法等に基づき、日本郵政グループ各社に対して、必要な監督・検査等を実施し、民営化の成果を国民が実感できるような事業展開の促進及び郵政事業のユニバーサルサービスの確保を図る。また、信書便事業について、民間事業者による信書の送達に関する法律に基づき、信書便事業者に対して必要な監督・検査等を行うとともに、信書制度及び信書便制度の周知・広報活動を推進し、信書便市場の活性化や健全な発展を図る。						
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	郵政民営化法等に基づき、日本郵政グループ各社に対して必要な監督・検査等を行う。信書便事業については、民間事業者等による信書の送達に関する法律に基づいて、検査等を行うとともに、市場の活性化や利用者の認知度の向上を図るため、制度の周知・広報活動を推進する。また、監督業務等の適切な遂行に資するため、郵政事業のユニバーサルサービスの確保や郵便・信書便事業における競争環境整備のための調査のほか、郵政事業を取り巻く経済の状況、物流・金融等の業界動向や行政・産業界での取組等の調査等を行う。						
実施方法	委託・請負、その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求
	予算 の 状 況	当初予算	71	52	52	52	57
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
	計		71	52	52	52	57
	執行額		61	39	46		
	執行率 (%)		86%	75%	88%		
	当初予算+補正予算に対す る執行額の割合 (%)		86%	75%	88%		
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由			
	庁費	42.3	47.1	調査研究内容の充実によるもの。			
	職員旅費	6.8	6.8				
	諸謝金	2.4	2.4				
	委員等旅費	0.5	0.5				
	計	52	57				

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	/	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標		目標最終年度	
								29年度	年度	-	年度
郵便局ネットワーク水準の維持	郵便局数	郵便局数	/	成果実績	局	24,470	24,452	24,421	-	-	-
				目標値	局	24,000	24,000	24,000	24,000	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	郵政民営化法案、日本郵政株式会社法案、郵便事業株式会社法案、郵便局株式会社法案、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構法案及び郵政民営化法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律案に対する附帯決議(平成17年10月14日 参議院郵政民営化に関する特別委員会)										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	郵便サービス水準の維持	郵便差出箱の本数	/	成果実績	本	181,521	181,692	182,523	-	-	-
				目標値	本	180,000	180,000	180,000	180,000	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	郵便法第70条第3項第2号 郵便法施行規則第32条第2項										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	郵便物が差し出された日から三日以内に送達すること	送達日数達成率	/	成果実績	%	98.6	98.6	98.5	-	-	-
				目標値	%	97	97	97	97	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	郵便法第70条第3項第4号 郵便法施行規則第32条第4項及び第5項 「平成29事業年度 事業計画」(日本郵便株式会社)										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	信書便事業の活性化	信書便事業への新規参入者数	/	成果実績	者	29	39	30	-	-	-
				目標値	者	30	30	30	30	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	成果目標は、過年度の特定信書便事業の許可件数を参考とした。										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	信書便事業の活性化	信書便事業市場の規模(※28年度実績値は集計中)	/	成果実績	億円	128	146	-	-	-	
				目標値	億円	100	100	100	100	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	成果目標は、「特定信書便事業の現況」(毎年9月公表)における過年度の特定信書便売上高総額を参考とした。										
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック			

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	VI 郵政行政									
	施策	郵政民営化の着実な推進									
	測定指標	定量的指標		実績値	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 29年度	目標年度	
		事業者及び利用者への信書制度及び信書便制度の周知活動の実施(信書便制度説明会の開催数15回以上)			回	15	16	15	-	-	
				目標値	回	-	-	15	15	-	
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
		郵政民営化の着実な推進を実施	日本郵政グループの事業展開の促進を実施	30	<p>平成24年の郵政民営化法の改正や平成27年の日本郵政グループ三社の株式上場等によって、日本郵政グループによるユニバーサルサービスの安定的な提供、企業価値の向上、利用者利便の向上等が重要な課題となっていることを踏まえ、日本郵政グループに対して適切に監督を行うことで、郵政民営化を着実に推進する。</p> <p>施策の進捗状況(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年4月1日、郵政民営化法施行令を改正し、ゆうちょ銀行の限度額を1千万円から1千3百万円に、かんぽ生命保険の限度額(加入後4年経過した契約について限度額に算入しない額)を3百万円から1千万円にそれぞれ引き上げた。 日本郵政及び日本郵便について事業計画等の認可を行い、日本郵政グループの事業促進を実施した。 						
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
	郵政事業のユニバーサルサービスの確保のための取組を実施	郵便事業のユニバーサルサービスの在り方に関する検討の着実な実施	30	<p>平成27年9月28日の情報通信審議会答申等を踏まえ、郵便事業のユニバーサルサービスの在り方に関する検討を着実に実施する。</p> <p>施策の進捗状況(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年9月28日情報通信審議会答申等を踏まえ、平成28年7月より「郵便のユニバーサルサービスに係る課題等に関する検討会」を開催し、同検討会における議論を踏まえ、平成29年3月に、郵便法に定める認可・届出や収支状況の情報開示に係る郵便法施行規則を改正するなど、対応可能なものについて必要な対応を実施し、平成29年6月に、郵便サービスの種別、政策的低廉料金サービスや郵便局ネットワークの維持・活用などに関するそれぞれの現状や課題等について「これまでの議論の整理」として取りまとめ、公表した。 							
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
<p>信書便事業については、平成15年の制度改革で信書の送達が民間開放され、その後、信書便事業者の参入が一定程度進んでいるところ、事業者及び利用者への制度の周知・広報活動(各地での説明会開催、周知用ポスター、チラシ等の作製等)を実施することにより、信書便制度の遵守が徹底されるとともに事業者の創意工夫を凝らしたサービスの提供が進むため、サービスの多様化等を通じた信書便市場の活性化や利用者利便の向上に寄与する。</p> <p>また、日本郵政グループ各社に対する監督業務や郵政事業のユニバーサルサービスの確保に資する各種調査研究等を実施することにより、日本郵政グループの健全な業務運営が確保されるとともに、将来にわたっても郵政事業のユニバーサルサービスが確保されるための方策が具体化し、それが実施されることとなるため、日本郵政グループ各社の企業価値や利用者利便の向上及び郵政事業のユニバーサルサービスの確保に寄与する。</p>											
アクション・プログラム	改革項目	分野:	-	-							
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度		
					-年度			-年度	-年度		
		成果実績	-		-	-	-	-			
			目標値	-	-	-	-	-			
			達成度	%	-	-	-	-			
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度			
				-年度			-年度	-年度			
	成果実績	-		-	-	-	-				
		目標値	-	-	-	-	-				
		達成度	%	-	-	-	-				

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明				
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	日本郵政グループ及び信書便事業者に対する監督は法令に基づき監督機関(行政)が実施するものである。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	日本郵政グループ及び信書便事業者に対する監督は法令に基づき監督機関(行政)が実施するものである。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	日本郵政グループ及び信書便事業者に対する監督は法令に基づき監督機関(行政)が実施するものである。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	競争入札を利用し、競争性を確保しながら支出先を選定しているが、「郵政事業のユニバーサルサービスコストの算定手法の在り方等に関する調査研究」及び「郵政事業を取り巻く経済環境に関する調査研究」については、一者応札であったため、入札辞退者にヒアリング等を実施したところ、「他の案件と重複して十分な人員を割けない」などの入札辞退者側の都合により、結果として一者入札となった。				
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有					
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	複数社から見積もりを取り、単位当たりコスト等の水準の妥当性について確認している。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	経費の積算及び仕様の作成に当たっては、費目・使途を事業目的に即し、必要なものに限定している。				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業実施の際、経費の効率的執行に努めている。					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	事業目的に即し効率的あるいは低コストな手段・方法及びコストを検討し事業を実施している。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	費用・使途を事業目的に即し必要なものに限定しており、活動実績も見込みに見合ったものとなっている。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	日本郵政グループ及び信書便事業者の監督の在り方、方向性の検討等に活用している。				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-					
	<table border="1"> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	所管府省名	事業番号	事業名			
所管府省名	事業番号	事業名					
点検・改善結果	点検結果		本件施策は、郵政事業の経営主体である日本郵政グループや信書便事業者を適正に監督するために必要な調査・分析を行うものであり、監督機関(行政)として必要なものである。また、調査等により得られた成果については、日本郵政グループ等の監督の在り方・方向性の検討等に活用されている。				
	改善の方向性		引き続き、競争入札による競争性の確保や経費の効率的な執行に努める。				
外部有識者の所見							
本年度は、外部有識者による点検対象外。							
行政事業レビュー推進チームの所見							
一部の事業内容改善	更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
執行等改善	予算の執行においては、引き続き、入札における競争性を確保し、経費の効率化を図ってまいりたい。						
備考							

関連する過去のレビューシートの事業番号

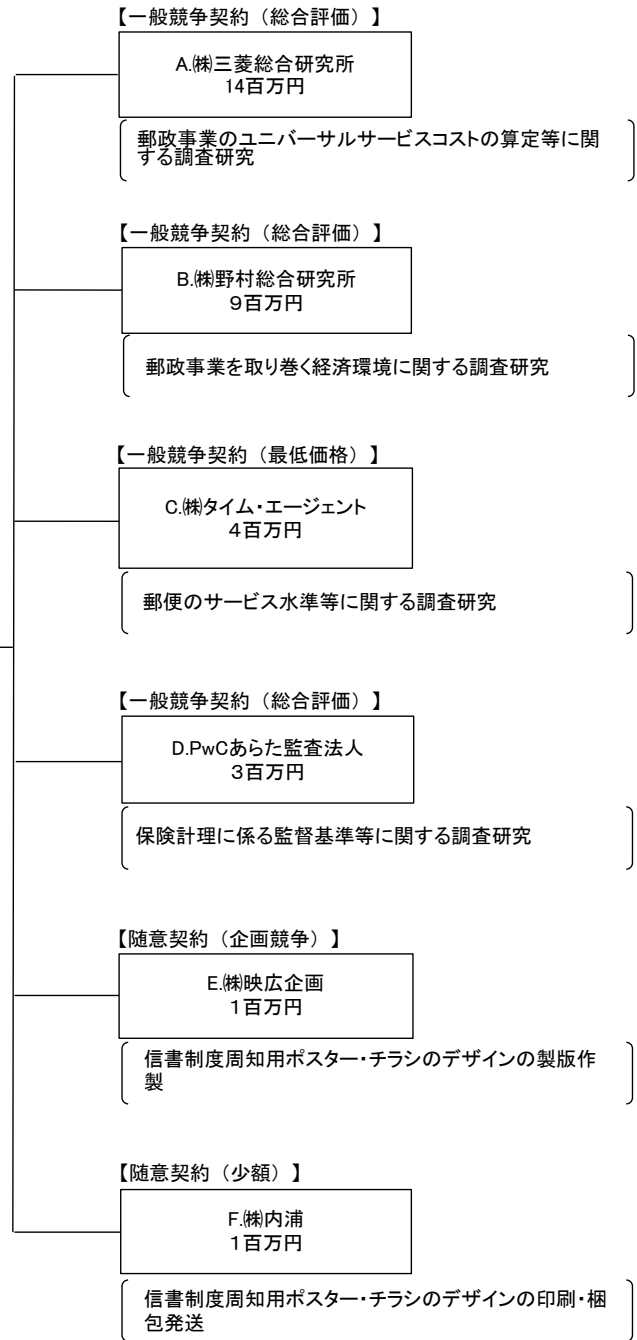
平成22年度	0139.0140.0141.0142.0143.0144	平成23年度	0140, 0141, 0142, 0143	平成24年度	0134, 0135, 0136, 0137, 新24-0
平成25年度	137	平成26年度	135	平成27年度	133
平成28年度	130				

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

総務省
46百万円

注) うち、14百万円は国内検査旅費や監督・検査等に係る物品費等に支出。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.株三菱総合研究所			B.株野村総合研究所		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	人件費	研究者	13.8	業務受託報酬 (受託研究費及び研究一般管理費)	コンサルタント	7
				その他	旅費、雑費	2
	計		13.8	計		9
	C.株タイム・エージェント			D.PwCあらた有限責任監査法人		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事務経費	通信費(郵便料金)、物品購入費(調査用封筒)、調査モニター謝礼 等	2.3	人件費	研究員	3
	人件費	研究者	1.3			
	計		3.6	計		3
	E.株映広企画			F.株内浦		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	雑役務費	デザイン・版下作成費	1.3	雑役務費	ポスター等の梱包・発送	0.6
				印刷製本費	ポスター等の印刷	0.5
	計		1.3	計		1.1
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載					チェック	

